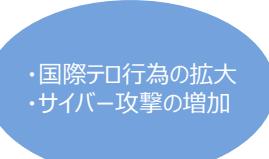


## はじめに ～日本に迫る脅威～

### 【伝統的脅威】



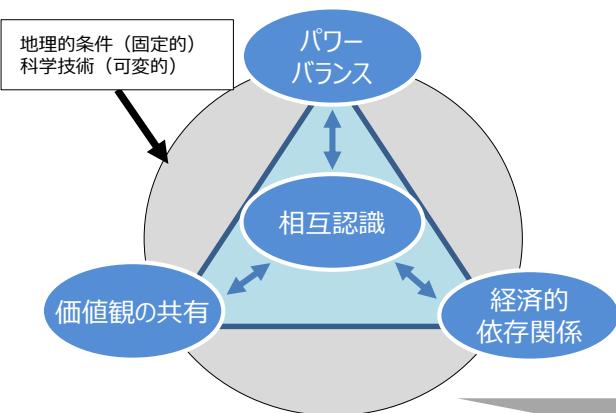
### 【非伝統的脅威】



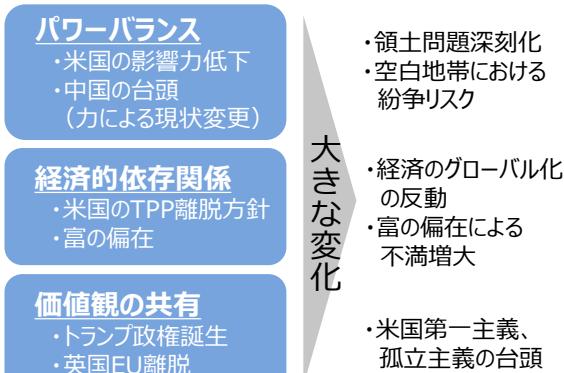
安全保障に対する脅威が拡大している

## 世界の安全保障の現状

### 【我々が考える安全保障の構成要素】



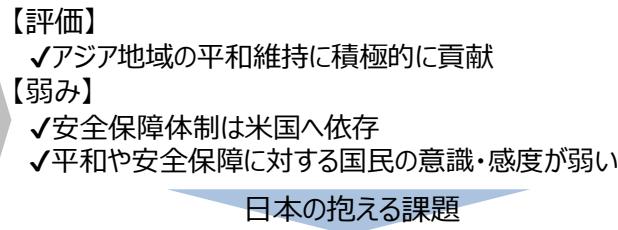
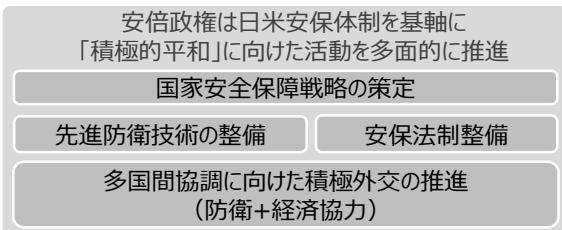
### 【世界情勢の変化】



安全保障構造が不安定な状態に陥っている

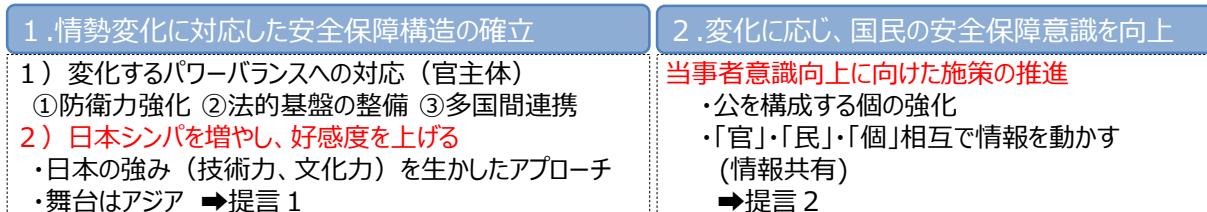
## わが国の抱える課題

### 【現政権の取組みと評価】



1. 情勢変化に対応した安全保障構造の確立
2. 変化に応じ、国民の安全保障意識を向上

### 【課題と対応の方向性】



サイバー適塾塾生として民間だからこそできる安全保障に向けた提言1、2へ

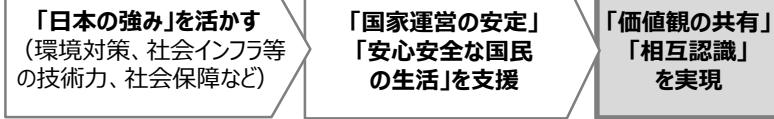
## 提言

### 【基本的な考え方】

安全保障上の「脅威」=「能力」×「意図」

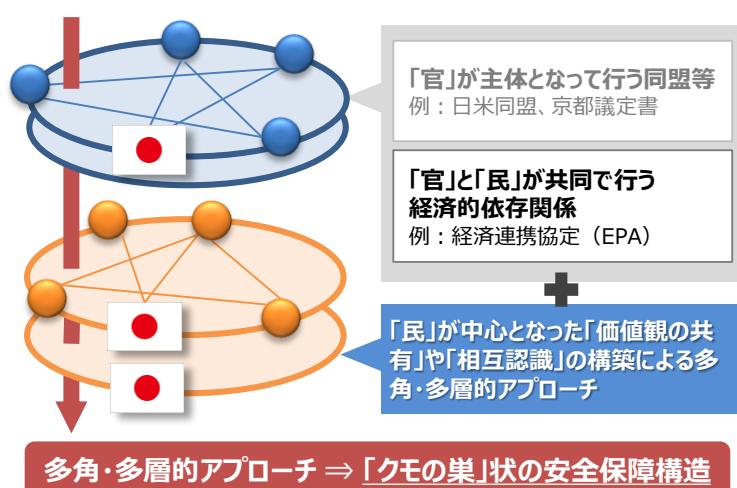
「価値観の共有」「相互認識」の構築による「意図」の低減

### 【アプローチ方法】



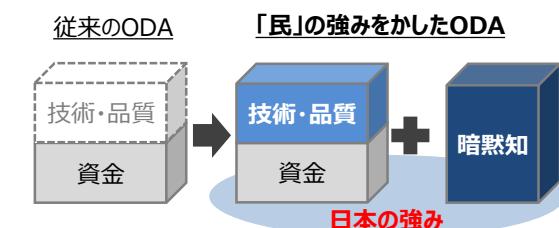
## 提言 1: 「民」が主体となったアジアにおける多層・多角的アプローチ

### 【安全保障構造の理想の姿】



### 【具体例】

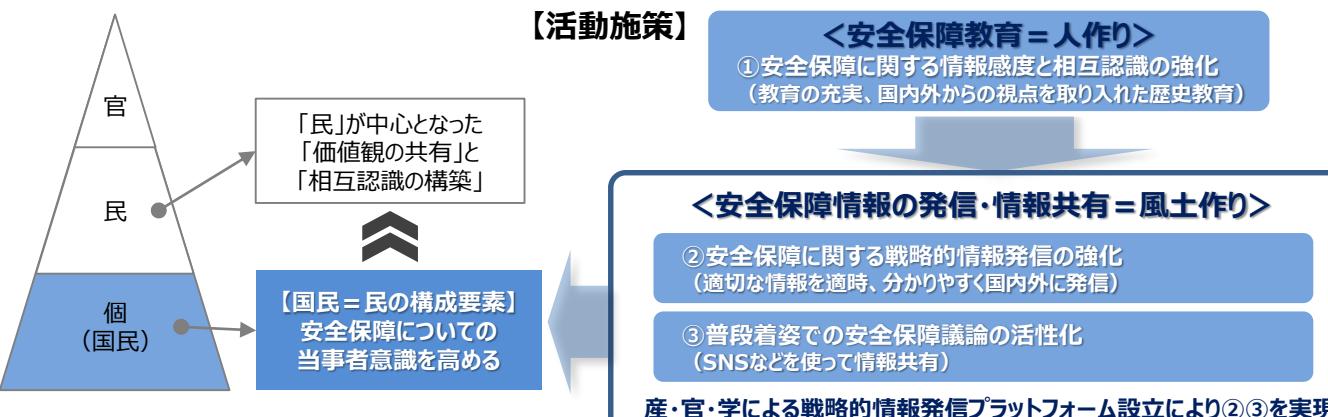
「民」の強みである暗黙知の伝承により被援助国の自立成長を促進



- ・ODA入札条件の変更：価格中心ではなく、技術・品質を重視した内容に見直し
- ・暗黙知の伝承：運営ノウハウ等を伝授することで、自立成長を促す環境作り、持続的な支援を実施

提言1を下支え

## 提言 2: 国の構成主体としての国民の当事者意識の向上



## さいごに：民間だからこそできる安全保障対策がある

- ・「民」が主体となり「価値観の共有」や「相互認識」につながる多角・多層的なアプローチを行うことで、脅威における「意図」の低減が可能
- ・国民が、安全保障に対して高い情報感度と相互認識を持ち、当事者意識を持って普段着姿で安全保障を語るようになることで、「民」が主体となった多角・多層的なアプローチを継続的に実行することが可能